体育会練習をとおして、思いやりの花が咲き乱れています

今日の１時間目は、全校道徳科の授業でした。体育会直前でありどの学年も「思いやり」や「認め合い」「温かい学級集団」をキーワードに、体育会と関連づけて授業をしていました。

１年生は、「一人ひとりが心地の良い一学年にするために、どのような心が大切かを考えよう」のめあてで、体育館において集会形式で学習しました。スマイル学級（特別支援学級）担任が授業を進めました。人には得手不得手があり、それを認め合い、助け合うことや、皆が安心して過ごすために必要なことなどを話しました。

子ども達は、姿勢を正し、しっかりと話を聞いていました。先生の問いかけに対して返事や返答をしたり、積極的に挙手をしたりする姿がとても良いと思いました。また、発表する生徒の方を向く姿も良かったです。きちんと目と耳で聞こうとする姿勢は素晴らしいと思いました。小学校の時から、きちんとそのような聞き方をしているせいか、自然の聞く姿勢ができています。本題とは逸れますが、「話を聞く力」はとても大切です。学力向上にも直結します。これからもしっかりと話を聞いてほしいと思います。

先生の問いかけに対し、非常に温かく、思いやりのある発言をしてくれた生徒がたくさんいましたので、その一部を紹介します。

質問：道具以外に、人の助けとして必要なものは何でしょう？

・友達　・困った人への思いやり　・気づくこと　・友情と絆

１年生からは、思いやりのある温かい発言が多数、聞かれました。今後もお互いを思いやることで、安心・安全で楽しい学校・学年・学級をつくってもらいたいと思います。

２、３年生は、体育会の大縄跳びを題材とした「みんなで跳んだ」を用いて、道徳科の授業をしました。大縄跳びを苦手とする生徒がいるクラスで、その生徒を入れてみんなで跳び、達成感を味わったという内容の題材です。これは実際に、ある中学校であった出来事であり、当時の実際の映像を見て、学習をしました。

実際の映像です。友達が抱きかかえ、一緒に跳びました

今日の題材は、自分たちにも重なるところがあり、どの学級でも真剣に考え、意見交流されていました。最終的に、体育会の成功は何か？クラスで大事にしたいことは何か？をどのクラスも確認することができたようです。もちろんそれは「勝つこと」ではありません。では、何を大事にしたいのか、どのような体育会にしたいのか。生徒から出た意見を、以下に紹介します。

・全員で協力して、目標を達成する
・誰も嫌な思いをすることがない体育会にする
・最初で最後の体育会を全力で楽しむ
・思い出に残る体育会にする

・みんなで楽しむ、みんなで思い出をつくる
・後悔がないようにする
・全力でやり切る
・心を１つにする
・何位でも喜ぶ
・全員で出ることがとても大切だと分かった。だから全員で出て、悔いのない体育会にする
・うちのクラスにも跳ぶのが苦手な人がいる。跳べる人だけが楽しむのではなく、苦手な人も「跳べて良かった」、みんなが「楽しかった」と言える体育会にしたい
・勝ちたいけど、全員で協力して絆を深めて、楽しく思い出に残るように、あきらめずに一生懸命取り組む体育会にしたい
・勝ちにいくことはもちろんだけど、一番はクラスの誰も欠けないことだと思う。自分が出る種目は全力で取り組み、出ない時は学年関係なく応援し、クラスでする時は、みんなで声を掛け合いながら、頑張る。そしてクラスの団結力をもっともっと深めていきたい

体育会練習で感じたことや学んだことを、教室の学習でしっかりと表現することができています。これらの発言や考えを見ると、体育会をすることの意義・大切さを改めて感じます。太宰府西中学校生徒の温かく、思いやりに満ちた心は、どんどん育ち、成長し、開花しています。１５日の体育会がますます楽しみになってきました。

☆授業の様子です